

The International University Sports Federation 2017に参加して

生命環境科学系 修士課程1年 中島みづき

「博士・修士課程学生のための国際研究集会渡航助成」の支援を受け、2017年8月26～31日にかけ、台北（台湾）で開催されたThe International University Sports Federation 2017 (FISU)に参加した。2年に一度の大学生の世界的競技スポーツの祭典が台北でおこなわれ、競技開催に伴い、スポーツ科学等の関連研究分野の学術交流会も開催された。学術会議内では、大学スポーツの意義やスポーツによる社会性の構築、コンピテンシーの向上などについての講演も行われた。また、自身が若手研究者賞にノミネートされたこともあり世界各国の若手研究者（大学院生）や競技会参加者との交流会に参加し、とても良い刺激を受けた。日本からは、各競技団体の関係者や大学体育連合理事長など、大学教育において体育・スポーツ振興の関係者が多く見られ、大学体育に関する見解を知れた。高等教育におけるスポーツ活動の重要性について知ることができた。

自身の発表は、「Analysis of stance phase during different of Nordic walking」というタイトルでポスター発表を行った。本研究の主な成果は、ノルディックウォーキング(ポールを用いた歩行)時の右脚立脚期中の筋活動と床反力について、自然歩行と比較した。ノルディックウォーキングを行うと下肢筋活動が減少し上肢の筋活動が増加、床反力のファーストピークが減少することを明らかにした。若年者においては下肢への負担が減少し上肢の筋活動が増加することから全身運動につながり下肢の怪我のリスクの低減、自立歩行が困難な高齢者においては歩行補助の役割を担うことが示唆された。多くの研究者が関心を示してくれ、活発な議論をすることができた。今回行われた議論をもとに本研究をさらに発展させていきたい。本学会に参加しとても有意義な経験を得ることができた。今回の経験を今後の研究成果で報いることができるよう、より一層研究に邁進していきたい。



学会会場（左写真）、発表者への記念の証書贈呈（中央写真）、他国の若手研究者との交流（右写真）